

平成三十年度入学者選抜学力検査問題

国語

(配点)

1	12点
2	21点
3	38点
4	29点

(注意事項)

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は一ページから十四ページまでである。検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。
- 4 解答用紙に氏名と受検番号を記入し、受検番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。受検番号が「0(ゼロ)」から始まる場合は、0(ゼロ)を塗りつぶすこと。
- 5 解答には、必ずHBの黒鉛筆を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」とおりにマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。
- 6 一つの解答欄に対して複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。
- 7 解答を訂正するときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。

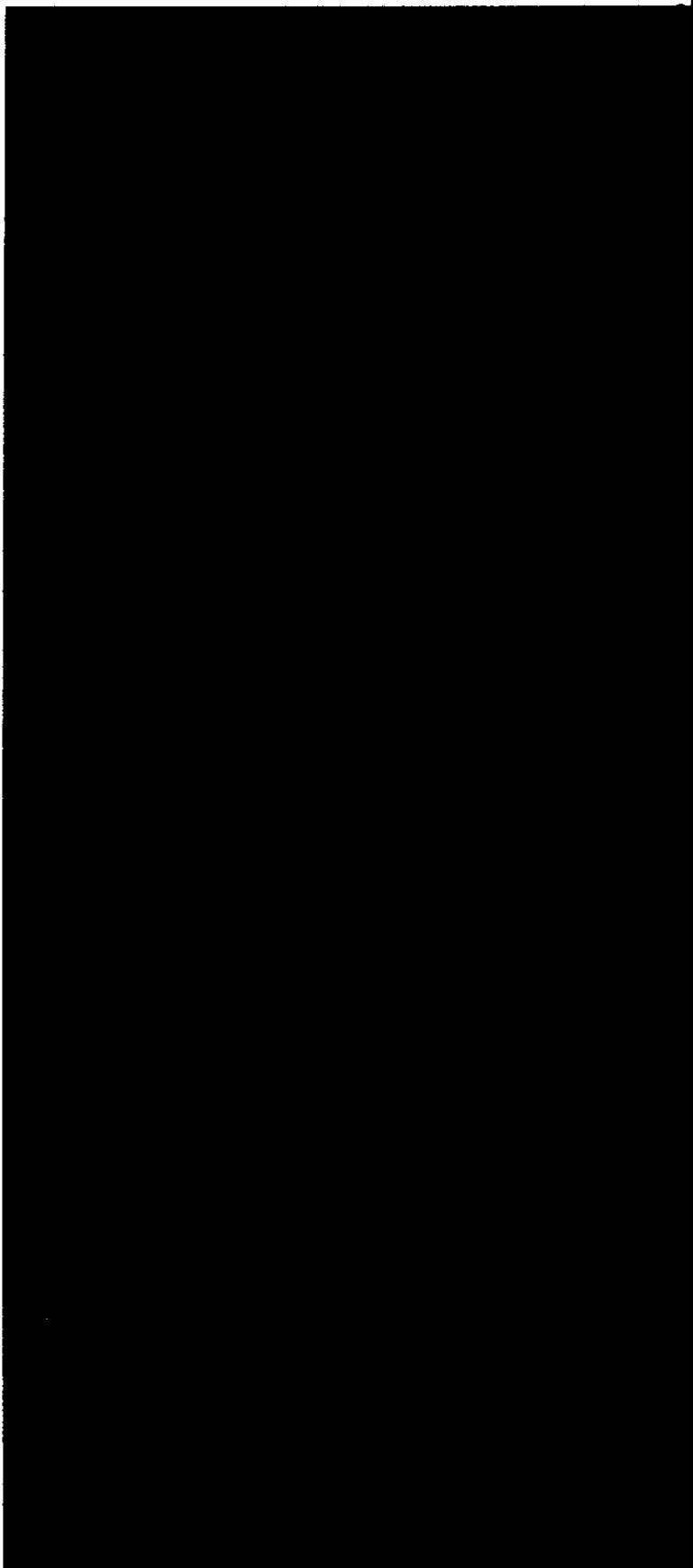
1

次の(1)から(6)までの傍線部の漢字表記として適当なものを、それぞれアからエまでのの中から一つずつ選べ。

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----------------------|-----|-----|-----|-----|
| (1) | 明 <u>口ウ</u> な子どもたち。 | ア 勞 | イ 郎 | ウ 朗 | エ 浪 | (2) | 借りた金を返 <u>サイ</u> する。 | ア 裁 | イ 債 | ウ 斉 | エ 濟 |
| (3) | 無責任な <u>う</u> わさが <u>ル</u> 布する。 | ア 流 | イ 累 | ウ 留 | エ 類 | (4) | カ <u>ン</u> 素な服装で参加する。 | ア 緩 | イ 閑 | ウ 簡 | エ 寬 |
| (5) | 卒業証書を <u>ジュ</u> 与する。 | ア 需 | イ 授 | ウ 取 | エ 寿 | (6) | 身の <u>ケツ</u> 白を証明する。 | ア 結 | イ 傑 | ウ 決 | エ 潔 |

2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。



(大輪靖宏『なぜ芭蕉は至高の俳人なのか』による)

(注1) 去来^{きらい}向井去来。芭蕉の弟子の一人。 (注2) 蕉門^{きょうもん}松尾芭蕉の弟子たちのグループ。

(注3) 芭蕉^{ばけう}松尾芭蕉。江戸時代前期の俳人。著書に『笈の小文』『奥の細道』など。 (注4) 酒堂^{しゅだう}浜田酒堂。芭蕉の弟子の一人。

(注5) 自称^{じくしょう}一人称。 (注6) 風狂^{ふうきやう}風雅(詩歌など)の道に徹すること。

問1 本文中に、蕉門⁽¹⁾における「さび」とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 「さび」とは、句の内部から滲み出るしみじみとしたものだが、句自体は華やかでなければならぬということ。
- イ 「さび」とは、賑やかさの中に静けさも感じられる句の内部から、おのずと滲み出てくるものであるということ。
- ウ 「さび」とは、寂しげでかつ静かな句の内部から、しみじみと滲み出てくるものでなければならぬということ。
- エ 「さび」とは、賑やかな句であれ静かな句であれ、句の内部から滲み出るしみじみとしたものであるということ。

問2 本文中の、岩鼻⁽²⁾やここにもひとり月の客の句に用いられている修辞技巧を、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 係り結び
- イ 体言止め
- ウ 倒置法
- エ 対句

問3 『去来抄』本文中の I、II、III には、次の 内のAからCが入る。その順序として最も適当なものを、後のアからカまでのの中から一つ選べ。

A ^(a)こゝにもひとり月の客と、^(b)己と名乗り出でたらんこそ、幾ばくの風流ならん。
B ^(c)明月に乘じ、山野吟歩し侍るに、岩頭又一人の騷客を見付けたる。
C ^(d)猿とは何事ぞ。汝、この句をいかに思ひて作せるや。

- ア A↓B↓C
- イ A↓C↓B
- ウ B↓A↓C
- エ B↓C↓A
- オ C↓A↓B
- カ C↓B↓A

問4 本文中の(a)から(d)の「ない」のうち、他と異なるものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア ^(a)述べたに過ぎない
- イ ^(b)なるかもしれない
- ウ ^(c)姿勢も感じられない
- エ ^(d)どうせ動きのない

問5 本文中に、作者自身の解釈よりも、読者の解釈のほうが上回ったとあるが、どのような点で上回ったと筆者は考えているか。その説明として

最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア 去来が、月を見ている人物を自分以外の者とし自身を傍観者にとどめたのに対して、芭蕉は去来本人として句の主役と見なした点。
- イ 去来が、月を見ている自分を静寂な風景の一部として描いたのに対し、芭蕉は名乗り出るという動作を入れて句に動きを加えた点。
- ウ 去来が、月を見ている行為を価値あることと意味づけられなかったのに対し、芭蕉は岩鼻で月を眺めることに風狂を感じ取った点。
- エ 去来が、月を見ている人間をただの旅人として描いたのに対して、芭蕉は月を愛するすべての風流人を代表するひとりと捉えた点。
- 問6 筆者は『去来抄』をどのようなものとらえているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 『去来抄』は、その書名が示すように、去来が蕉門の一員としていかにすぐれた俳人であったかを後世の人に示すことを目的として書かれた書物である。

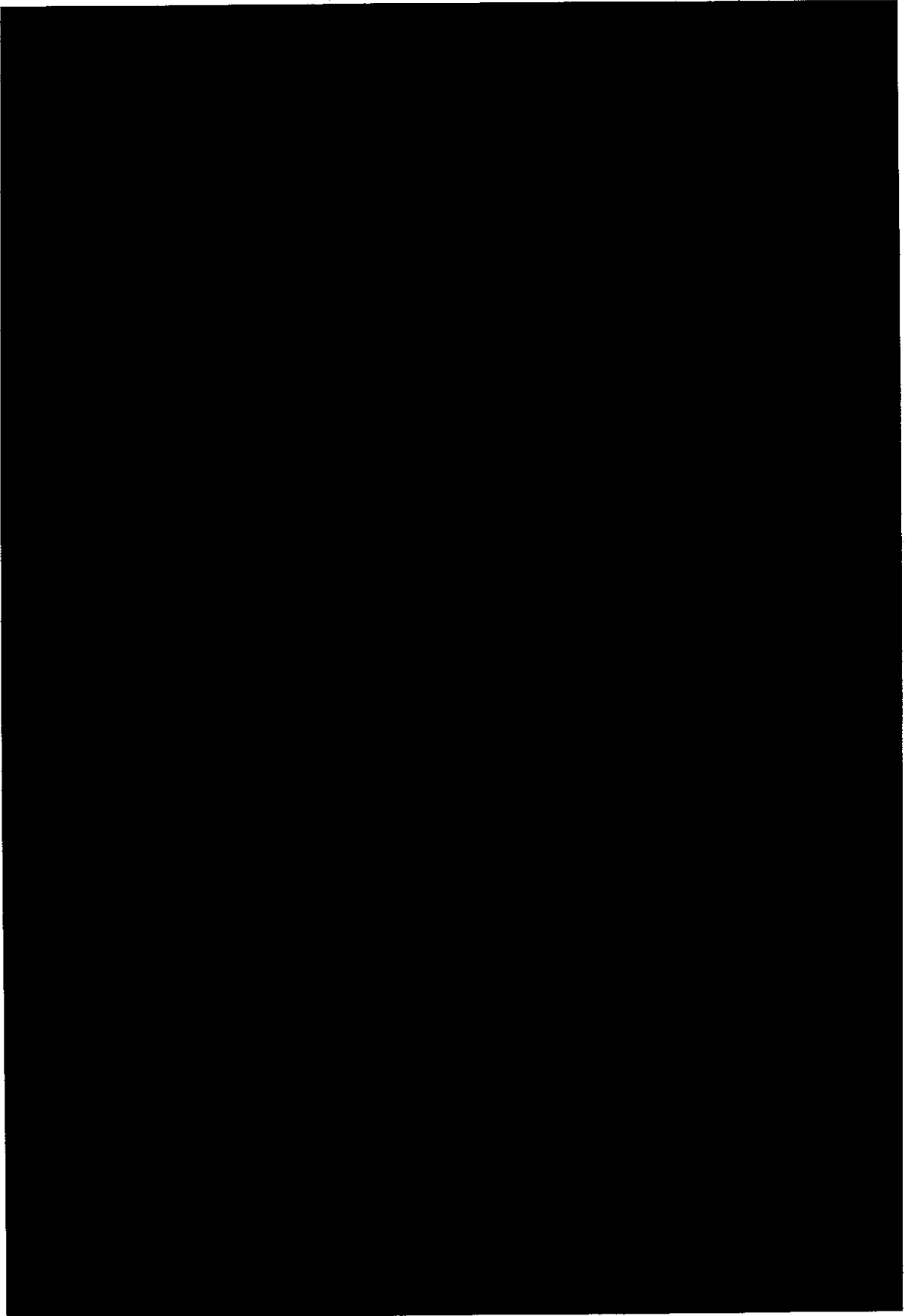
イ 『去来抄』は、時には作者の意図を超えて改作されてしまう俳句の難しさを、去来が自身の体験談を通じて具体的に描くという特色を有した書物である。

ウ 『去来抄』は、芭蕉が作者としてだけでなく、俳句についてのさまざまな面で卓越していたことを今日まで伝えるという大きな意義を持つた書物である。

エ 『去来抄』は、「さび」や句の解釈などの俳句に関するあらゆる問題について、芭蕉自らが豊富な事例にもとづきながら分かりやすく著した書物である。

3

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。



(亀田達也『モラルの起源—実験社会科学からの問い』による)

(注1) コスト⇨費用や労力。 (注2) 互惠⇨互いに便宜や利益を与えたり、受けたりすること。

(注3) ダンバー⇨ロビン・ダンバー。一九四七年。イギリスの霊長類学者。

(注4) カフェテリア⇨客が好みの料理を自分で選んで運ぶ形式の食堂。

(注5) ゴシップ⇨うわさ話。 (注6) 利他⇨自分を犠牲にして、他人に利益を与えること。

(注7) デマンド⇨要求。

問1 A、B、Cに入る語として適当なものを、それぞれ次のアからエまでのの中から選べ。ただし、同じ語は二回入らない。

ア しかし イ もちろん ウ もし エ やはり オ では カ つまり

問2 本文中に、⁽¹⁾二者に閉じない⁽¹⁾とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 助ける人と助けられる人の問題であり、その他すべての人にとっては無関係であるということ。

イ 助ける人と助けられる人の直接の関係であり、その場にはいない人は除外されているということ。

ウ 助ける人と助けられる人の直接の関わりだけでなく、その他の多くの人も関係するということ。

エ 助ける人と助けられる人だけの関心事ではなく、他の人も興味を持つ可能性があるということ。

問3 本文中に、⁽²⁾なんだか変な気がします⁽²⁾とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 相手からの報復を恐れて見ず知らずの人々にも親切にするのだとする考え方は、人間の心理の説明として間違っていると思われるから。

イ 見返りが期待できない相手でも罰や制裁への恐れから助けるのだとする考え方は、社会の仕組みを十分に説明していると思えないから。

ウ ヒトが他の霊長類と異なる行動を取ることを進化の結果だとする考え方は、近年の研究の成果を正しく反映していないと思われるから。

エ 評判を落とす恐れがあるからその場限りの相手でも見捨てないとする考え方は、人間の持つ利他性を無視したものと思えないから。

問4 本文中の、⁽³⁾それは、どのようなことを指すか⁽³⁾。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア ヒトにとつてのゴシップは、話す人と話題になっている人との間に交流を生み出すきっかけになるということ。

イ ヒトにとつてのゴシップは、うわさになっていく人同士のきずなや連帯感を強める働きをしているということ。

ウ ヒトにとつてのゴシップは、人間社会の潤滑油として現代の情報化を促進する役割を果たしているということ。

エ ヒトにとつてのゴシップは、話す人同士を結び付けて仲間としての意識を高めるのに役立っているということ。

問5 本文中に、⁽⁴⁾誰も見ていないと思つてやつた行動は、情報価が高いと言えます⁽⁴⁾とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 誰もいないところで取つた行動には、その人の能力がはつきり表れていて、良い評判を得るための重要な指標になると考えられるから。

イ 誰かに見られていることを計算に入れていない行動には、その人の本性が表れていて、人間性を評価するための指標として有効だから。

ウ 誰かに見られているとは知らずにする無意識の行為には、その人自身も気づかない本心が表れていて、評判を良くする効果が高いから。

エ 誰もいないところでする親切的な行為には、その人の真の人間性がでていて、見返りを期待しない純粋な善意として高く評価されるから。

問6 本文中に、対人マーケット¹⁵⁾とあるが、それはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

- ア 集団で生活する人間が、うわさ話などの情報にもとづいて付き合う人を選ぶメカニズムを「マーケット(市場)」にたとえた表現。
- イ 話の好きな人間が、直接の知り合いでもない人に熱心な興味を示して評価している状況を「マーケット(市場)」にたとえた表現。
- ウ 産業が発展した結果、能力の高さだけで人間を評価するようになった社会のメカニズムを「マーケット(市場)」にたとえた表現。
- エ 情報サービスが普及した結果、宣伝によって自分を売り込もうとする人間が現れた状況を「マーケット(市場)」にたとえた表現。

問7

D、Eに入る語句の組み合わせとして適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

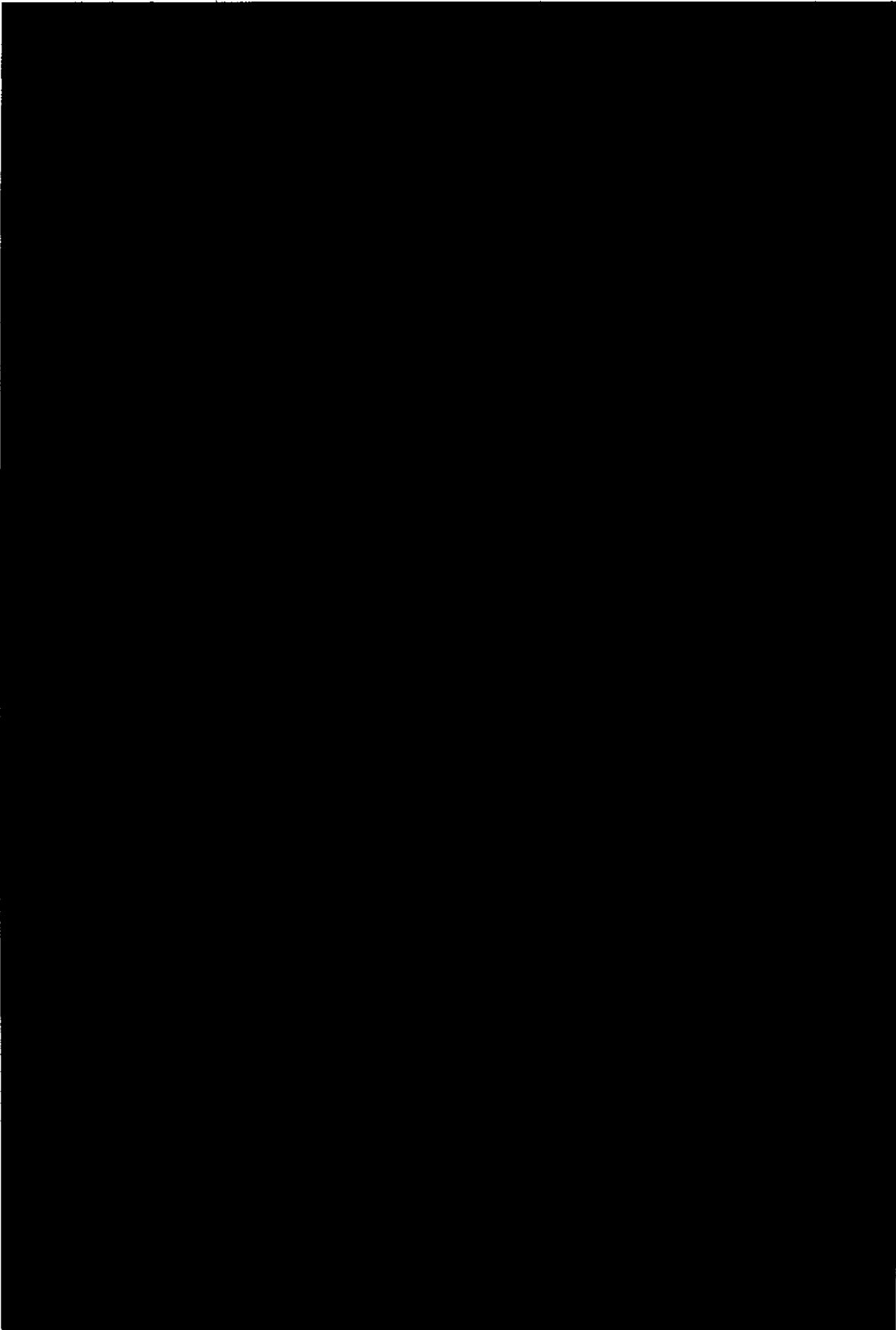
- ア D || 短期的に損をすること E || 長期的に利益をあげること イ D || 評判の悪い人 E || 理性的で評判が良い人であること
- ウ D || 合理的で冷徹な計算 E || 情に流されること エ D || 固定した小集団 E || 人工的集団として拡大し続けること

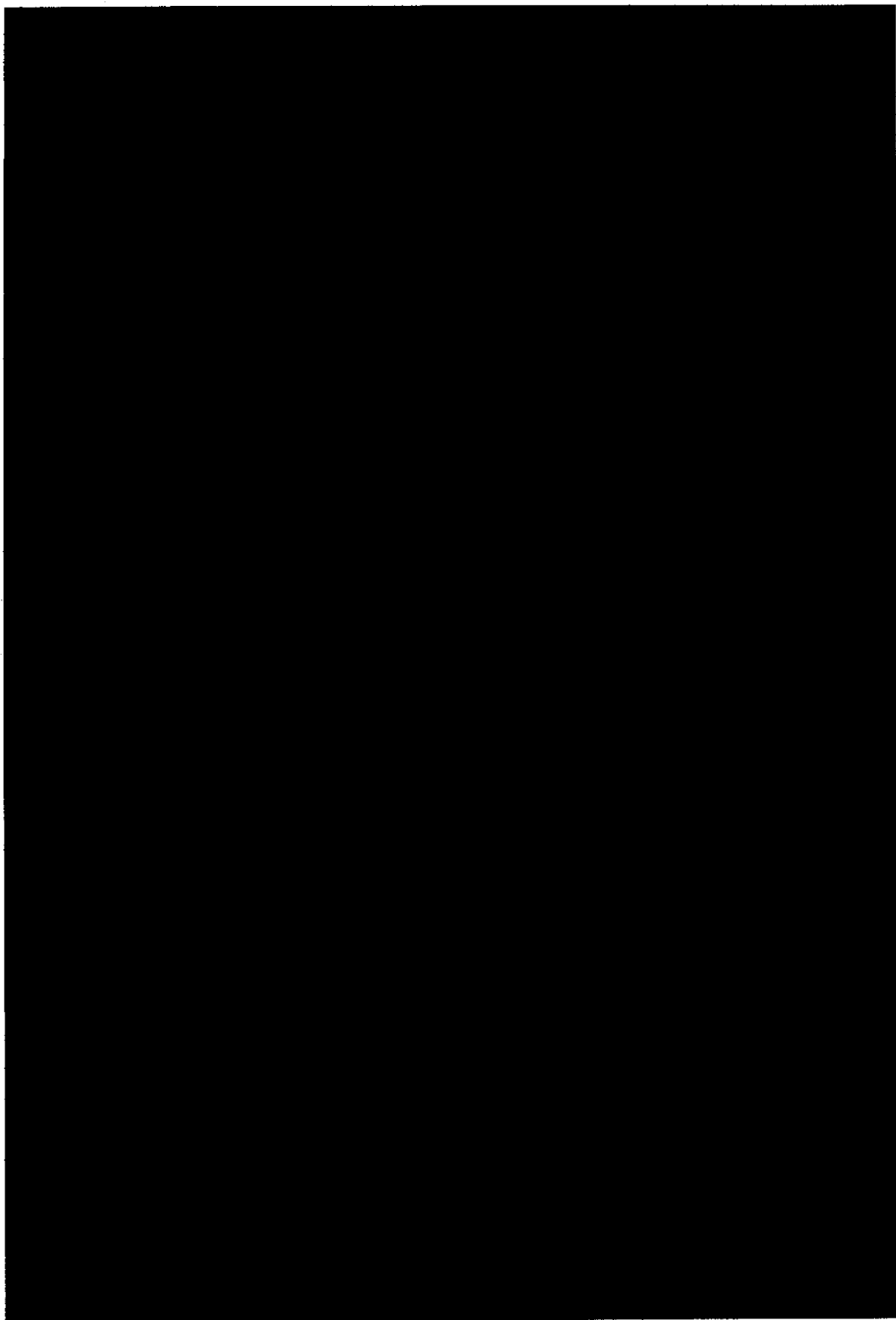
問8 この文章の内容に合致するものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

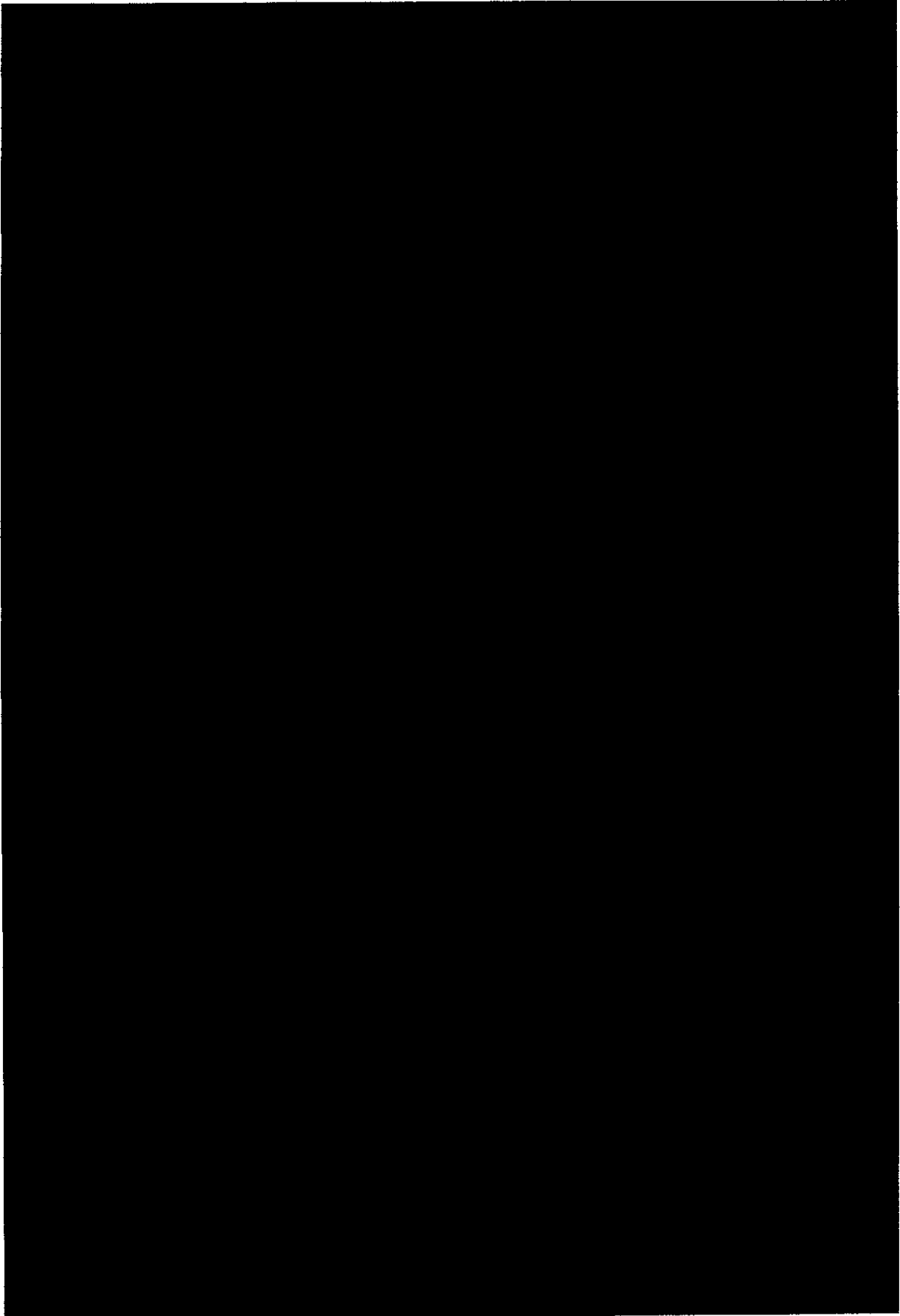
- ア 仲間との協力関係を作ることがとくに上手な動物であるヒトが、自ら進んで他人を助ける行為をする仕組みは、市場メカニズムが拡大しつつある現代社会において衰退していくことが心配されている。
- イ 近代化・産業化が進んで社会が拡大してしまつた結果、人は計算高く冷たい人間に違和感を抱くようになって、身近な人々とだけ温かい気持ちで平和に暮らしたいと願うようになることが予想される。
- ウ かなりのコストがかかるにも関わらず、見返りが期待できない相手を私たちが助けるのは、進化の過程で集団生活を選んだ人間が協力関係を築くために作り上げてきた独自の仕組みによると思われる。
- エ 面白おかしいいい加減なゴシップを好んで話題にしたがる人は、芸能人や重要人物の人間性を露わにするうわさ話を取り上げることによって、自分自身の評判を良くすることを狙っていると考えられる。

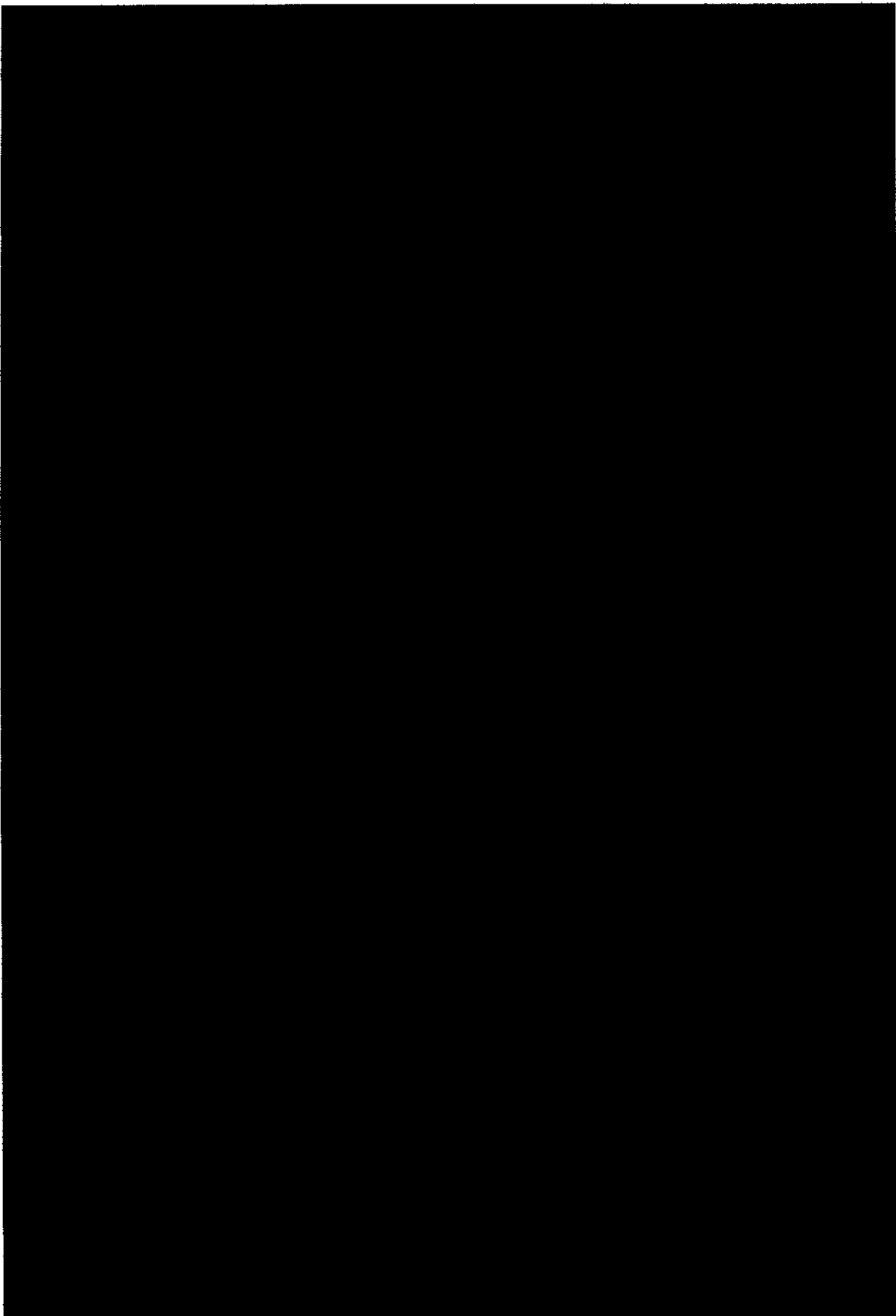
4

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。









問1 本文中の、億劫だった、得心がいった の意味として最も適当なものを、それぞれ次のアからエまでのの中から選べ。

- (a) ア どうでもよかった イ 不快だった ウ 気がかりだった エ めんどくさかった
(b) ア 共感した イ 納得した ウ 判断した エ 決心した

問2 本文中に、そのためには、いったん、⁽¹⁾がっかりしなくちやいけなかった。とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 自分ががっかりしないためには、湖が見られなかったときの気持ちをあらかじめ想像してみる必要があった。
イ 父ががっかりさせないためには、湖は見えなくても父に失望を悟られないよう心構えしておく必要があった。
ウ 自分ががっかりしないためには、湖は見えないはずだという父の言葉の通りになると思い込む必要があった。
エ 父をがっかりさせないためには、湖がどう見えても気落ちしたふりをしようとして心に決めておく必要があった。

問3 本文中の、そんなことはどうでもよかった。とは、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 母や姉がどんな態度を取ろうと、私は父の機嫌をよくするためにちよつとがんばらなければならず、家族のきずなが強まるならなおよかった。
イ 母や姉の気持ちはさておき、その場の空気を壊さないためには、父の望むように反応することで機嫌を損ねないようにすることが大事だった。
ウ 父に気に入られようとすることは普段の私の習慣なので、そうふるまおうとすると、母や姉の考えをいちいち気にかけるのは無意味だった。
エ 父に対して愛想よくふるまうのは妻や娘としては当たり前で、父を喜ばせるためなら、みんなで少しがんばるくらい大したことではなかった。

問4 本文中に、わたしはバンザイをしそうならだの動きをした。とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- ア 母の言葉が父の期待通りだったと知って、緊張から解放されると同時に、少しおどけた父の様子にうまく応じてみせようとしたから。
イ 家族の沈黙にもう耐えられないと思つた矢先に、母の機転で父の機嫌が直つて、ほつとするあまり大げさに返事をしてしまったから。

ウ 大好きな父と母の口から、自分たち一家が美しく純粋な家族だと聞かされて、やはり思った通りだったと喜びがこみあげてきたから。
エ 姉や私に対する父の言葉に、かすかにとげがあるのをすばやく感じ取って、場を和ませるためわざとふざけてごまかそうとしたから。

問5 本文中に、カタカタと顔を左右に振りながら、父はきびすを返した。とあるが、それは父のどんな様子を表しているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 長旅の疲れも取れてきたのでちょうど頃合いだと、固まった首をほぐしながら引き返した。
イ 予想通り摩周湖が見えて上機嫌になり、妻や娘たちにも明るくふるまいながら引き返した。
ウ 娘たちに会うのを待つ祖母を気づかないながら、一刻も早く出発しようと急いで引き返した。

エ 妻の実家に出発しようと気持ちを切り替え、冗談めかした言葉を口にしながら引き返した。

問6 本文中に、その声はわたしの胸にすうつと入った。とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 両親と赤い屋根の実家のなつかしい思い出にひたって、安らいだ母の温かい気持ちだが、娘たちにもたやすく感じ取れた。
イ 列車で帰ったかった本心を父に悟られないよう、それとなくほめかした母の気持ちだが、娘にだけはまっすぐに届いた。
ウ 自宅からの道筋を心の中でたどり直しながら、実家を思い浮かべている母のおだやかな気持ちだが、私に自然と伝わった。
エ 祖母と離れているのをすまなく思い、家族が祖母を慕うようになってほしいと願う母の気持ちだが、私の心に強く響いた。

問7 この小説の内容や表現の特徴を説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 摩周湖のように美しく純粋な家庭を夢見る父の姿と、そんな父に微妙ないらだちを感じる母と娘たちという構図を用いて、家族関係を冷静に見つめる少女の自我の芽生えを印象的に描き出している。

イ 青く澄んだ摩周湖に雲がかかる景色を背景に、家族の会話を一人一人細かく描き分けることで、この先も皆一緒なら大丈夫だと信じようとする一家の姿を、丁寧な心理描写によって描き出している。

ウ 美しい摩周湖に家族の姿を対比させ、一見何の問題もない平和な家庭が実はかすかな緊張をはらんでいることを、湖の青さに心ひかれる少女の視点を通して、巧みな比喻を交えつつ描き出している。

エ 摩周湖の澄み切った深い青さとその上に浮かぶ白い雲のコントラストを細密に描き、思い込みが強い父とそれを包み込む母や娘たちの優しい姿を、美しい風景描写とともに象徴的に描き出している。